



北大医学部 土橋晋也

最強の医師ランナー目指す

走る理由

静岡マラソン4日開催
今年で5回目を迎える静岡マラソン2018(日刊スポーツ)など主催。午前8時20分、静岡市役所前発。JR清水駅東口着)が、4日に開催される。18人がエントリーした「陸連登録学生男子」には、北海道大学6年の土橋晋也、静岡大3年の茂木篤も名を連ねた。2人に「走る理由」を聞いた。

目標 優勝と2時間20分

医師の卵が、学生最後のマラソンに挑む。土橋の目標は、「陸連登録学生男子の部」優勝と2時間20分切りだ。自己ベストは、2016年福岡国際マラソンで記録した2時間21分37秒。「静岡マラソンにはずっと足のケガが転機「治せるようになりたい」と工学部やめ2浪後合格

出場したいと思っていました」と言い、有終の美を飾る決意だ。

高校では、トラック長距離が専門だったが、スピードのない自分が生き残る道を模索した結果、北海道大医学部に入學後、マラソン挑戦を決断した。道内の真駒内マラソンで14年、16年と2度優勝を果たすなど、

計14度の完走。着実に実力を伸ばした。「選択は正しかったと思います」。正しい選択を模索するのは、勉学でも同様だ。北海道大には先に工学部で入学していたが、約1カ月で退部。足のケガが転機になり、「これを治せるようになりたい」。スポーツ選手の手助けをした」と思い、医師を志した。その後、2年間の浪人生活を経て、医学部に再入学。医療系学生の陸上部ではなく、よりレベルの高い全学部の陸上部に所属した。週1度の部練習では1000回X7本、400回X15本、それに加え、30分走の自主練習を重ねた。必

ず1タールで50分以上走る日を毎週設けてきた。「他の選手と比べたら練習回数は少ないですが、1回でスピードもスタミナもつけるようにしました」。

静岡マラソンの準備をしつつ、2月10、11日には医師国家試験を受験した。勉強に追われる中、朝5時に起床。20分以上を走った後、10時間以上机に向かった。「周囲からはベストの状態ではないと思われているが、結果を出してびっくりさせたんです」。

試験に合格すれば、4月から医師になる。志望は整形外科医。卒業後も競技を続け、最強の医師ランナーを目指す。

【古地真陸】

土橋晋也 (どはし・しんや) 1991年(平3)6月生まれ。愛媛県新居浜市生西武学園文理。中学3年間はテニス部に所属。高校から陸上競技を始める。家族は両親、妹、弟。175cm、60kg。血液型AB。

昨年11月5日、全日本大学駅伝対校選手権大会で、最終8区を走る北海道大の土橋